

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり

第4回 生息環境づくり部会 第3回 地域づくり部会

議事要旨

あいさつ

事務局 本日は、二つの部会の合同という形で会議を開催する。最初に兵庫県農政環境部の西村氏に、兵庫県但馬地域を中心とした、コウノトリと共生する農業への挑戦という題で講演いただく。また、合同部会ということで、委員の皆様から日ごろの活動等について、ご意見をいただきたい。

議事

(1) 特別講演「コウノトリと共生する農業への挑戦～コウノトリが教えてくれたもの～」

(兵庫県農政環境部農業改良課、西村いつき参事による講演)

事務局 コウノトリが安定して生息するには、採食環境が大変重要で、環境に配慮した農業の展開が鍵となると感想を抱いた。

委員 コウノトリ育む農法で生産した農産物はJAが販売に関わっているとのことだが、売り先の確保は困難もあったと考える。買い手はすぐに見つかるものだったのか、JAの尽力によるものなのか。

西村氏 コウノトリの知名度も高くない、農法の名称もない初期段階、売り先の確保には非常に苦労した。JAに販売のお願いをした時には、当初は消極的な姿勢だった。生産振興・生産技術試行と並行し、県職員がお米を売り歩いた。ほとんど断られた中で、何件か協力いただける販売先を確保することができた。現在は生産面積がかなり大きくなり、大部分の集荷・流通はJAにゆだねる形となっている。

JAが協力してくれるようになると、総代会でコウノトリ育む農法の推進のため、お米の三本の柱の中に位置付けるということを意志表示してくださった。それ以外にも、生産面積の増加と生産者の収入増に向け、様々な取り組みを進めてくれた。

JAや豊岡市だけでなく、但馬地域の他市町も広報に財政的な協力をいただいている。

そうした多様な主体の協力もあって、当初定めた販売単価が維持されていると思う。

一般傍聴者 コウノトリ育む農法以外でも、生きものをシンボルとした農業は全国で進められている。こうした取り組みが進むと、産地間の競合が生じてくるのではないかと思うが、対応は何か考えているか。

西村氏 コウノトリ育む農法の農産物は、イトーヨーカドーで販売しているが、生産量が足りな

いということで関西限定というかたちをとっている。

生きものブランド農産物について、競合が生じることは想定されるが、そうした状況をプラスと考えるかマイナスと考えるかは別の話だと考える。生物多様性、環境の面から考えてもらい、生きものブランド農産物が地域で増え、多くの方の理解が広がっていく、そうした消費者側の協力の輪が広がっていけばよいと考える。

(2) 指標大型水鳥類に関する最近の動向について

事務局

(「資料2：指標大型水鳥類に関する最近の動向について」の説明)

委員 鳥類ワーキング、東部の方は開催するのか。

事務局 事務局の対応が追い付かず、東部の鳥類WGを開催できていない状況にある。冬鳥が旅立つ前に開催したい。

(3) 各委員からの活動報告

委員 1月19日、議題(2)でも報告があった鳥類ワーキングに参加し、現地視察、今後の方向性の議論を行っている。視察では数時間回った中で、トキをのぞく4種群の大型水鳥類が比較的身近なところで確認できるという、非常に恵まれた豊かな地域であるということの再確認ができた。

西村氏の講演に関連して、雲南では昨年4羽のひなを育てていた。あのまま順調にいけば、恐らく4羽が巣立った可能性があったと考える。いかに雲南の自然環境・採食環境が恵まれているかということ、我々地元の人間としては確認をしたほうが良いと考える。

委員 ホシザキグリーン財団では、宍道湖グリーンパークという野鳥観察のできる観察施設の運営と、島根県立の宍道湖自然館ゴビウスの指定管理等を行っている。研究、調査、および、そうした活動をもとに、自然環境の大切さや保護活動の重要性等について普及活動を継続して行っている。

委員 雲南の西小学校ではコウノトリについて子どもたちが勉強を続けている。7月に講師で呼んでいただき、一緒に田んぼにすむ生き物を調べた。多くの生きものがくらししており、コウノトリを支えるのに恵まれた環境だと実感できた。

今後環境づくりを進めていくにあたっては、自然が豊かな地域なので、場所さえ整えてあげれば食べ物となる生物は自然と増える、地域の生態系に配慮、特に外来種の問題もあるため、わざわざ外からコウノトリの食べ物となるような生き物を持ってくる必要はないと考える。

委員 島根県の三瓶自然館サヒメルにおいて、近年自然と接する機会が少なくなっている子ども

たちをメインターゲットに、自然に接する場づくりのため、展示・普及活動を進めている。

雲南市の西小学校のコウノトリの方にも、同館スタッフが少し関わっており、課題の一つである野生生物や自然環境と接する基本的なマナーを知っていただくことを考えていきたい。

委員 米子水鳥公園では、去年は特に国際交流として、コウノトリ「げんきくん」が飛んで行った韓国のファポチョン湿地やその周辺との交流事業を行い、先方から子どもたちを招いたり、逆にこちらから地元の子どもを連れて行ったりした。

施設を活用しての活動として、絵画コンクールの開催・展示、地元の料理や炊き出し・地元になんだクイズを交えたウォーキング大会等を行っている。人材育成という点では、小学生を対象としたこどもラムサールクラブ、卒業生の中高生で構成するジュニアレンジャークラブの企画運営を行い、自然環境教育の推進、そうした自然を守り育て伝える活動の担い手育成を進めている。ジュニアレンジャークラブは、昨年、野生生物保護功労者表彰を授与した。

委員 山陰合同銀行は、圏域の事業者、農業者等のビジネスチャンス拡充という課題に対し、主導的に行政・各支援機関へ連携を働きかけ「株式会社 地域商社とっとり」の設立、また、出資・人材派遣等の支援を実施した。今後、このような商社を活用しながらしっかり地元のサポートを行ってまいりたい。

委員 平成 25 年度の平成の大遷宮をピークに、大社への参拝者は減少傾向にある。出雲への観光客は今後も減少が懸念されている中、斐伊川水系の自然環境を活かした観光振興が鍵となると考えている。実際には先日のラムサールシンポジウムで、先行事業者から多くの課題点が述べられたところだが、動かなければ地元の人もこの魅力を知らぬまま埋もれさせてしまうと思い、2月 24 日に有料でツアーを実施することとした。

平成 30 年度には、観光協会第 3 種の旅行業の免許を取り、野鳥を含めた、あらゆる地域型の旅行商品を開発したいと考えている。

委員 約 190 ヘクタールの農地を経営し、うち 10 ヘクタールで無農薬・無化学肥料、冬期湛水のコメ作りを続けている。冬期湛水水田には毎年 1000 羽以上のコハクチョウがやってくる。今年は大雪の日にマナヅルが 9 羽ほど訪れた。

無農薬・無化学肥料のコメづくりを通じた地域の環境づくり、安心・安全な農産物づくりを継続して進めている。また、昨年より、圃場の水を落とした時に水生生物が避難できる場所の整備を、協議会と連携して進めている。

委員 約 35 ヘクタールの農地を経営し、うち 4 ヘクタールで無農薬・無化学肥料・冬期湛水のコメ作りを続けている。冬期湛水水田には毎年コハクチョウが採食や休息に訪れるが、今年も 100 羽ほどが訪れている。また、秋から冬にかけてはコウノトリも短期間ながら飛来している。

カメラマンの話が議題（2）であがったが、最近、子どもや野良犬が田んぼに入ってコハクチョウを脅かすというトラブルがあった。

委員 中海の水質問題を考える上で鍵となる海藻「オゴノリ」の肥料としての活用拡大に向けた活動を展開している。海藻肥料を用いたコメや野菜の生産面積は拡大傾向にある。また、境港市では学校給食に海藻米を使ってもらえるようになり、さらに昨年 11 月、野菜についても海藻農法を用いたものを使えないかというオファーがあったところ。

委員 委員の活動を科学的見地からサポートさせていただいている。島根大学発のベンチャーとして株式会社「なかうみ海藻のめぐみ」を立ち上げ、海藻肥料および農法の一層の普及に取り組んでいる。

委員 斐伊川は典型的な砂河川だが、土砂の流入量は減っており、河床低下の傾向はしばらく続くと考えられる。そして河床低下が収まってくると、水が流れるところが固定化され、低水敷の深掘れ、砂州や高水敷が安定し植生が繁茂してくる、治水上の問題が出てくるというのが、今の斐伊川の現状ではないかと考える。

堤外地での保全・整備を進めていく上では、下流側についてはまだ土砂供給が続くことから、ある程度どういう風に地形が変化していくのかを、できれば定量的に、難しければ定性的にでも予測したうえで、保全・整備を行う場所を選定していく必要があると思う。中上流域は高水敷等の樹林化が進んでいる中、治水と環境保全の両立に配慮していくことが大切だと考える。

雲南圏域ワーキング事務局 平成 29 年 10 月に、雲南市は奥出雲町、飯南町とともに生態系ネットワーク協議会に加入した。同 12 月に雲南圏域ワーキングを事務局として開催し、参加者からの意見と対応についてとりまとめを行った。現在、対応中の案件としては、市民や来訪者への注意喚起、啓発周知等が挙げられる。

雲南市立西小学校に協力いただきながら、校区の地域の皆様へという願いを作成し、普及を進めている。他の学校についても、コウノトリを先生とした教育活動を進めたいと考えている。

コウノトリの郷公園とも連絡を取り合いながら、今年の営巣・繁殖の成功に向けて準備を進めている。

これらの活動を市の施策としてしっかり位置付けるため、現在環境基本計画を作成し地域の皆さんと一緒に取り組んでまいりたい。

委員 今回は西村氏にコウノトリのすみ良い環境づくりと農業について講演いただき、非常に勇気づけられた。雲南にはすでにコウノトリがやってきており、早急に環境づくりや地域づくりに取り組んでいかなければならないと感じている。さらに、雲南に今見られているコウノトリは出雲や安来、奥出雲にも広がる可能性が考えられ、あわせて地域づくり、環境づくりを進めていかなければならないと感じている。それには多くの主体の協力が必要だということも、今回の講演を通じて改めて感じた。今後も行政や事業者、民間団体の力をあわせ、ともに生態系ネットワークの形成等に向けた活動を進めていきたい。

その他（部会の再編について）

事務局 これまでは協議会の下に生息環境づくり部会と地域づくり部会を、それぞれの部会の下

にワーキングをぶら下げて様々な議論をしてきたが、検討項目は地域振興・地域活性化の要素が強く、メニューが多岐にわたるという問題が生じた。そこで、それぞれの分野に分かれて、専門家による部会を再構築してはどうかと考えた。

また、雲南圏域ワーキングを先行して開催したところ、斐伊川流域と一口に言っても地域の特性はそれぞれに異なるということを感じ、圏域の部会を立ち上げてはどうかと考えた。

具体的には前者の専門部会は水辺環境、環境学習、地域振興、農地環境部会、後者の圏域部会は東部圏域、西部圏域、雲南圏域部会としてはどうかと考えている。

閉会

事務局 第5回の協議会は、2月27日に予定している。本日紹介した部会再編案を、協議会で諮りたいと考える。

以 上